

# 良好な自然環境を有する地域学術調査について

群馬県環境森林部自然環境課 自然環境係

## 1 はじめに

群馬県では、毎年、県内の自然環境の基礎調査として「良好な自然環境を有する地域学術調査」を行っています。昭和49年（1974年）より開始された本調査は、今年で40回目を数えます。

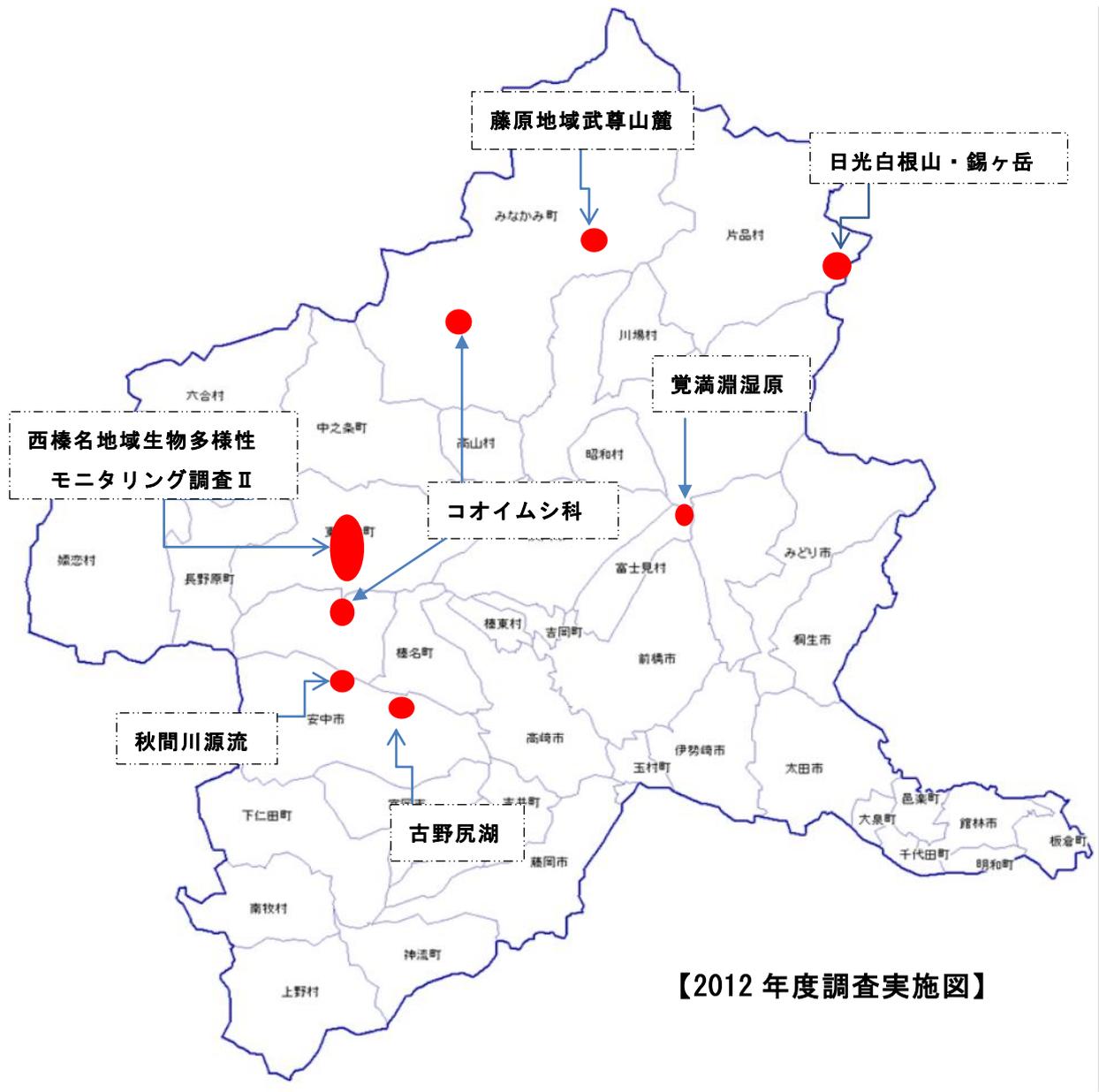
県内各地において地形・地質、植物、動物の3部門から調査を行い、そこで得られた調査結果については、報告書にまとめた上で各市町村図書館、研究機関等へ配布しています。また、特に、近年実施したものについては、[自然史博物館のホームページ](#)でも公開しています。

※自然史博物館 HP [http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report\\_environment/](http://www.gmnh.pref.gunma.jp/research/report_environment/)

## 2 近年の良好な自然環境を有する地域学術調査について

2012年度に実施した調査とそこで得られた調査結果（要旨）は次のとおりです。

調査地域	調査区分	調査結果（要旨）
日光白根山・錫ヶ岳周辺	地形・地質 植 物 動 物	日光国立公園内を主な調査対象地として調査を実施。今まで調査されることの少なかった群馬県側の植生、植物相、動物相などについての資料が得られた。また調査地域内では、ニホンジカの摂食と踏みつけによる攪乱により植生が衰退し本来の状態が失われていることや、登山道の荒廃、絶滅危惧種に対する盗掘の実態などが明らかになった。
藤原地域武尊山麓	地形・地質 植 物 動 物	武尊山山麓の利根川、櫛俣川、湯ノ小屋沢川、手小屋沢、武尊沢に囲まれた地域を調査。植物については、かつて高原の大規模な草地として管理されてきたことで生育していた絶滅危惧植物が管理放棄や盗掘等により、大幅に減少していることが判明し、動物については、県レッドデータブック改訂版（以下、RDBとする。）掲載種が多数確認された。
覚満淵湿原及びその周辺部の植生保全について	植 物	覚満淵湿原及びその周辺地域の保全対策のための基礎調査として実施。植生の遷移によって湿原周辺部に繁茂するようになったニッコウザサやススキの刈り取り効果について、複数の実験区を設けて植生等の比較を行った。実験区では、種多様性が向上したほか、ゼンテイカの株の大型化や未開花区での開花が確認された。
コオイムシ科 (Belostomatidae)	動 物	県RDBにおいて「情報不足」評価を受けたコオイムシ科について、県内における生息調査を実施。
秋間川源流	地形・地質	秋間源流の基礎的踏査を行い、ここには岩屑なだれ堆積物の厚層、成層した火山泥流堆積物、垂角礫・垂円礫層等が分布し、数枚の火砕流堆積物があることを明らかにした。前年度の結果と合わせ、これを下位の秋間層とは別の地層群と考えた。
古野尻湖	地形・地質	秋間志や安中志等に古文書に記述されている野尻湖について、安中市周辺にそのような湖が実在したかどうか、その証拠となる湖成堆積層の有無を調査した。本年度は安中市築瀬の露頭の記載を見たが、地質時代のものである。歴史時代のは未発見である。
西榛名地域生物多様性 モニタリング調査Ⅱ	植 物 動 物	伝統的農耕に伴って多様な植生・植物相が成立し生物多様性の極めて高い生態系が維持されている西榛名地域にてモニタリング調査を実施。調査の結果、多くの在来植物の生育又は増殖が維持されているが、外来植物の生育等がその脅威になっていることが明らかとなった。



### 3 最後に

この調査は、大学教授や県内の高校教諭等から構成される「群馬県自然環境調査研究会」に委託して行っています。

現在、県では、本調査をはじめとする自然保護を目的とした学術調査及び情報交換に御協力いただける学識経験者を募集しております。

興味関心のある方は、お気軽に下記連絡先までお問い合わせください。

#### 【問い合わせ】

群馬県環境森林部自然環境課（群馬県自然環境調査研究会事務局）

〒371-8570 前橋市大手町 1-1-1

電話：027-226-2872 FAX：027-243-7702 E-mail：[kanshizen@pref.gunma.lg.jp](mailto:kanshizen@pref.gunma.lg.jp)